

梅津 恒さんを送る

岩村 秀 (化学教室)

梅津さんは、昭和53年3月理学部ボイラー技士として化学教室に入られました。それまでは、都内の会社の冷暖房空調、衛生設備の点検、運転、保守の仕事をしておられたようです。昭和59年には、文部技官になられました。当初すでに汽缶士2級、乙種第4類危険物取扱者、東京都調理師などの免許、資格をお持ちでしたが、理学部においてになってからも都公害防止管理者、防火管理者の資格をお取りになるなど大変な勤勉家でありました。

ボイラーの運転は、朝点火して夕方火を落とせばよいというものではなく、水質検査、排気検査等きめ細かく注意されておいでです。それ以外の時間、またボイラーを使用しない時期に、何をしておられたかと考える方がおいでかと思いますが、梅津さんの真骨頂が発揮されたのはむしろこの時間帯であると言えます。冬期を含めて、毎朝8時過ぎには化学館南側の外まわりの清掃をしている姿をお見受けします。さらに暇をみては教室、廊下の清掃、整備、建物の点検等々、化学教室での教育研究が整然かつ円滑に進行する上での縁の下

の力持ちの役に徹されました。配慮が行き届き、体が実によく動く方です。

教育研究の場から大事な裏方がまたお一人消えて行くという寂しい思いがいたします。大学の荒廃が指摘される昨今ですが、こういう方々が定年でお辞めになり、また代替の定員が削減で無くなるということも荒廃の一因となっているのを残念に思います。

梅津さんは、米沢の御出身で、まず絹織物工場に就職されたのが職業と御趣味を決めるのに深く関わっていたと述懐されております。すなわち、繭の蒸気処理からボイラーへの関心が深まり、染色の妙から油絵の御趣味へと広がったとのことでした。還暦のお祝に御子息から新しい絵の具一式をプレゼントされたのが大変嬉しかったとのことでした。お料理の腕は、その資格が示す通り、プロであります。

これからは、時間にもゆとりができることでしょうかから、豊かな御趣味を生かしてお元気にお過ごし下さることをお祈りいたします。